



## 答え合わせ・解説

問1	<b>答え 1</b> インド	21世紀以降、豊富な労働力や高度な教育を受けたIT人材などを背景に経済成長が続いています。自動車産業においても、巨大な国内市場を背景に生産台数が急増しており、アジアにおける主要な工業国としての地位を確立しました。
問2	<b>答え 1</b> 外国企業の工場を誘致するなどして、付加価値の高い製品を輸出できるようになった。	かつてのマレーシアは、天然ゴムや原油、すずなどの原材料輸出に頼る経済構造でしたが、政府が外資系企業の誘致を積極的に行ったことで、テレビや電子部品などの機械類の製造が発展しました。その結果、原材料をそのまま売るよりも高い利益（付加価値）が得られる工業製品が輸出の中心となりました。輸出総額が単純に10倍になったというデータや、資源の枯渇、農業の消滅といった事実はこの統計変化の直接的な説明として適切ではありません。
問3	<b>答え 1</b> 夏に湿った空気を蓄えた季節風が、海から陸に向かって吹くため。	ガンジス川下流域などで降水量が多くなるのは、夏にインド洋などの海側から水分を多く含んだ季節風（モンスーン）が吹き込むことが原因です。この風が陸地で雨を降らせるため、この時期に降水が集中し、年間降水量も多くなります。反対に、冬の季節風は大陸から海へと吹く乾燥した風であるため、雨をもたらすことはほとんどありません。
問4	<b>答え 1</b> 北方の異民族による侵入を防ぎ、自国の領土を防衛するため	万里の長城は、農耕社会であった中国の歴代王朝が、北方の遊牧民族（異民族）の侵入を阻止するために建設した巨大な防衛施設です。秦の始皇帝がそれまでの城壁をつなげたことに始まり、明の時代まで長期間にわたって増築・改修が繰り返されました。選択肢にあるコロンブスや大航海時代は、万里の長城が建設された主な時代背景とは関係がありません。
問5	<b>答え 1</b> 聖なる川とされるガンジス川での沐浴が文化的な特徴として根付いている。	ヒンドゥー教徒にとってガンジス川は罪を洗い流す聖なる場所であり、多くの人々が沐浴のために訪れます。豚肉の禁止はイスラム教の特徴であり、タイやミャンマーで盛んなのは仏教です。仏教はインドで誕生しましたが、現在のインドにおいて最も信者が多いのはヒンドゥー教です。
問6	<b>答え 1</b> 工業化	インドネシアでは、かつては特定の天然資源や農産物の輸出に頼るモノカルチャー経済に近い状態にありましたが、近年は製造業が飛躍的に発展しました。輸出の主役が原油やゴムから機械類へと変化したことは、その国で加工・製造を行う能力が高まったことを示しています。
問7	<b>答え 1</b> 海洋からの湿った季節風が吹き込む雨季に、湖や河川の水位が大幅に上昇するため。	東南アジアの気候は季節風（モンスーン）の影響を強く受けており、海洋から湿った空気が運ばれる雨季には、湖や河川の水位が劇的に上昇します。水上集落は、こうした水位の変化に対応し、浸水を避けながら水辺で生活を営むための合理的な工夫として形成されました。一方、大陸から乾いた風が吹く時期は乾季となります。
問8	<b>答え 1</b> 石油資源による経済発展とともに、伝統的なイスラム教の教えが生活や文化の基盤として維持されている。	アラブ首長国連邦を筆頭に、西アジアの産油国では石油輸出で得た莫大な富を背景に、世界最高層のビルを建設するなど急速な近代化が進められてきました。しかし、その一方で精神的な支柱としてはイスラム教が大きな役割を果たしており、伝統的な宗教文化と最先端の経済開発が共存しているのがこの地域の大きな特徴です。